

《研究課題名》

経鼻挿管抜管後の鼻出血発生頻度とリスク因子

《研究対象者》

西暦 2020 年 4 月より 2025 年 2 月までに滋賀医科大学医学部附属病院麻酔科にて全身麻酔のため経鼻挿管を受けられた成人患者様

研究協力をお願い

滋賀医科大学において上記研究課題名の研究を行います。この研究は、対象となる方のカルテ情報を用いて行う研究であり、研究目的や研究方法は以下の通りです。情報の使用について、直接ご説明して同意はいただきず、このお知らせをもって説明に代えさせていただきます。対象となる方におかれましては、研究の主旨・方法をご理解いただきますようお願い申し上げます。

なお、本研究への情報の提供を希望されない場合、あるいは、本研究に関するご質問は下記（８）の問い合わせ先へご連絡ください。

（１）研究の概要について

《研究期間》 滋賀医科大学学長許可日～2028 年 3 月 31 日

《研究責任者》 滋賀医科大学 麻酔学講座 今宿康彦

（２）研究の意義、目的について

《意義》

経鼻挿管は全身麻酔時の気道確保として広く施行されていますが鼻出血の合併症を伴います。その多くはチューブ挿入時に起こり軽減策が施され対処方法も確立されています。一方で、抜管時にも鼻出血を起こすこともあり、こちらの発生率や原因は不明な点も多く、対処が遅れてしまうこともあります。

《目的》

経鼻挿管チューブ抜管後における鼻出血発生頻度を調査し、その頻度と影響が考えられる因子を調べることを目的とします。発生率とリスク因子を明らかにすることで事前の対処が可能となり患者さんの安全に寄与できると考えられます。

（３）研究の方法について

《研究の内容》

全身麻酔経鼻気管チューブ抜管後 24 時間における鼻出血の発生について電子カルテを用いて調べます。鼻出血を起こした患者さんとそれ以外の患者さんにおいて違いが何かを検討します。

《利用し、又は提供する試料・情報の項目》

カルテ情報より患者さんの背景（性別、年齢、身長、体重）現病歴、既往歴、内服薬、血液検査、バイタルサイン（血圧 心拍数）麻酔・手術時間、挿管器具を調査します。観察期間は術後 48 時間までとします。

《試料・情報の管理について責任を有する者》

国立大学法人 滋賀医科大学 学長 上本 伸二

（４）個人情報等の取扱いについて

本研究を実施する際には、あなたの情報から、あなたを特定できる情報（氏名、生年月日、住所等）を除き、代わりに本研究用の ID を付けることで、その情報が誰のものであるか分からない状態にします。ただし、必要な場合に特定の個人を識別できるように、あなたと ID を結び付けることができるような加工をした情報を残します。尚、加工された情報は、施錠できる場所で担当者によって厳重に管理されます。

（５）研究成果の公表について

本研究の成果は学会発表、学術雑誌およびデータベースなどで公表します。公表の際には個人が特定されることがないように、十分配慮いたします。

（６）研究計画書等の入手又は閲覧

本研究の対象となる方又はその代理人の方は、希望される場合には、他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で本研究に関する研究計画書等の資料を入手・閲覧することができます。ご希望の場合には、下記（８）の問い合わせ先へご連絡ください。

（７）利用又は提供の停止

本研究の対象となる方又はその代理人の求めに応じて、対象者の方の情報を本研究に利用（又は他の研究に提供）することについて停止することができます。停止を求められる場合には、下記（８）にご連絡ください。

（８）本研究に関する問い合わせ先

担当者：滋賀医科大学 麻酔学講座 今宿康彦

住所：520-2192 滋賀県大津市瀬田月輪町

電話番号：077-548-2281

メールアドレス：hqanes@belle.shiga-med.ac.jp